

平成 30 年度 答申
「那覇市観光基本計画の進捗について」

平成 30 年 7 月 12 日
那覇市観光審議会

観光振興施策への提言について

1 クルーズ船寄港増加による受入体制の整備

好調な沖縄県の観光情勢の中で、那覇港においてはクルーズ船寄港回数が平成 26 年から増加傾向であり、平成 29 年（暦年）は寄港回数が前年比 16.1%増の 224 回となり過去最高を更新しており、今後も増加が予想されている。

クルーズ船寄港に伴う受入体制を整備するため、引き続きクルーズ受入現場との調整に加えて、第 2 クルーズバースの建設など将来を見据え、那覇港管理組合や沖縄県クルーズ促進連絡協議会などと連携し、クルーズ受入組織の一元化に努めていただきたい。

また、貨物専用岸壁へ入港したクルーズ船の 2 次交通手段の確保については、タクシーの制限区域への入構継続やシャトルバスの活用を検討するなど、引き続き利便性の向上を図っていただきたい。

2 国際通りを中心とした中心市街地の魅力化

那覇市国際通り県庁駅前商店街振興組合が平成 30 年 1 月に実施した事業者対象アンケートにおいて、国際通りの強みは「活気があり、魅力的な通り」との回答が高い割合である一方で、「ゴミ箱の数」や「違法看板や客引きの増加」など、様々な課題挙げられている。

那覇市の中心市街地の魅力発信に努めるとともに、課題として挙げられている問題については実効性のある改善策を検討していく必要がある。具体的には、中心市街地におけるゴミ箱の設置や、めんそーれ那覇市観光振興条例に定められた、違反看板および歩道上での執拗な客引き行為に対する是正指導の強化などが挙げられる。これらの問題に対してすでに取り組みを行っているものもあるが、依然として改善がされていないケースが見受けられるため、沖縄県や那覇市観光協会、通り会等と連携を取り、安全・安心・快適なまちづくりに努めていただきたい。

また、国際通りが持つブランド力を磨き上げる工夫や手法を取っていただきたい。例えば、てんぶす前大型ビジョンを活用して天気（台風）予報や緊急情報などの重要な情報発信や同大型ビジョンと連動可能なデジタルサイネージの配置などテクノロジーを活用した新たな取り組みを実施していただきたい。

観光振興施策への提言について

3 那覇市観光協会の取り組みに対する支援強化と事業の充実

近年、国内外観光客の増加とそれに伴い多様化する観光ニーズに対応するためにも、行政と民間を繋ぐ観光協会の役割はますます重要になってくると思われる。

那覇市観光協会においても、平成27年に策定した「那覇市観光基本計画」の中で、民間が連携すべき取り組みに対するプラットフォームとしての機能の充実や、コーディネーター役としての取り組みが求められており、那覇市における観光の拡大や成長に繋げる新たな取り組みに着手するために、さらなる支援強化に努めるとともに、広域的なPRを行うため、観光協会のDMO化についても調査・検討していただきたい。

フリーWi-Fiのトップ画面となる那覇市観光協会ホームページについては、Wi-Fi認証を行った観光客が必ず目にするものであり、抜本的な改善が必要である。

また、滞在型観光及び観光まちづくりの仕掛けとして実施している「那覇まちまーい」は観光客のみならず市民も多く参加する事業であるが、新たに外国人観光客向けや市民にとってより魅力的なコースを設けるなど、参加者数を伸ばすための具体的な手法を実施していただきたい。

4 安全・安心な環境の整備

すべての人が安心して旅行を楽しむことができる観光地を目指し、各種情報提供などのソフト面も含めたバリアフリー環境整備について今後も取り組んでいく必要がある。

乳幼児連れの観光客に対する授乳室やトイレ等の情報収集、フードアレルギー対応店舗の把握、外国人観光客に対して多言語対応の観光情報や災害時の避難案内情報の提供など優先順位を明確にしたうえで取り組みを検討していただきたい。

また、デジタル化社会が進む中で、インターネット等での情報発信は非常に有効的な手段ではあるが、デジタル情報を利用出来ない方のために、アナログ情報の充実など、全ての人々が平等に各種情報を得られるように図っていただきたい。

観光基本計画において「歴史の学び・体験メニューの充実」を掲げているが、歴史的建造物の中には危険性が高い場所もある。構造物に手を加えることが困難なケースもあるので、危険性の高い場所の検証作業や事前周知など、ソフト面での整備について、関係機関と意見を交えながら対応をしていただきたい。

観光振興施策への提言について

5 公衆 Wi-Fi サービスの利活用について

訪日外国人旅行者が日本滞在中に役立つ情報を取得するツールとして「スマートフォン」と回答した割合が 7 割近くを占めるなど訪日外国人の旅行動態は、スマートフォンを最大限に活用したものとなっており、今後も公衆 Wi-Fi サービス等のインターネットへの通信基盤は維持継続すべきものであると考える。

月平均約 21.6 万回の認証数があり、先進的に整備が進んでいる「NAHA CITY FREE Wi-Fi」の接続先からの情報発信や利用データなどのビッグデータを利用した新たな取り組みについても検討していただきたい。

また、災害における Wi-Fi の利活用など、観光以外の分野における活用法についても検討し、那覇市の資産である「NAHA CITY FREE Wi-Fi」の利活用について調査研究を進め施策を実行していただきたい。

6 観光客を受け入れる那覇の魅力向上

平成 28 年度に実施された那覇市民意識調査において、外国人観光客の受入状況を「好ましいがマイナス要因もある」と感じている人が 5 割を超え、ここ数年の観光客急増により多くの市民が何らかの負担を感じている結果となり、市民への観光理解の仕組みづくりや那覇の魅力を向上させる取り組みが必要と思われる。

沖縄県が策定している「沖縄観光推進ロードマップ」を参考に独自のロードマップ策定や、「なはけいざい MAGAZINE」なども活用し、子どもの頃から観光への関心を高めるなど、観光の意義について市民理解を得られるように計画の策定、啓発に努めていただきたい。

また、魅力向上のために新たなアフター MICE コンテンツの開発やユニークベニューなど MICE 振興に関する施策の展開や、公共施設における 2 次交通との連結場所確保など公共交通利用環境の向上に努めていただきたい。

観光統計における「市内での活動内容」に対する期待度の高い「食」に対する満足度を向上させるため市魚「マグロ」の戦略的なブランディング化など観光客が求める「沖縄の食」に関する視点や、外国人観光客のニーズや特徴を把握するために外国人観光客に特化したアンケート等の調査を実施するなど、国籍や各観光コンテンツなど様々な分野におけるニーズを調査・分析し、魅力向上に努めていただきたい。

沖縄県は、沖縄ブランドの浸透を図るために「Be.Okinawa」を掲げているが、那覇市においても、産学官で構成する「那覇市観光地ブランディング委員会（仮称）」を設置し、世界的な知名度を高めるためのキャッチコピーをはじめ各種方策を検討して頂きたい。